

〈追 悼〉

さようなら、塩入秀敏先生

きちょうめんに整理整頓された研究室にたたずむと、今、先生がすでに亡いことが信じられない。学内のこと、地元のこと、ちょっと詳しく知りたいことがあると、とっさに「先生におたずねしよう」と思うことが、しばしばある。

あまりに急なお別れに、私たちはとまどうばかりだが、先生ご自身も不本意でいらしたろうと拝察する。

先生は、本学附属図書館の館報にご執筆の文章の中に、『ヘンリ・ライクロフト氏の私記』を何度も取りあげられている。そこでは、田園都市での散歩と読書と思索にふける暮らしを理想として紹介されている。そして、それは先生ご自身の日常的なライフ・スタイルとして投影されたものでもあったようにお見受けする。

学生を慈しみ、学校を大切に、郷土をこよなく愛された先生。

私たち残された者は、先生のように十分にはできないかもしれませんが、先生の姿勢に学び、先生の尊重されたことがらを大切にしていきたいと思っております。

安らかに眠りください。

大橋 敦夫